授業科目名	歴史学(2000039)		
時間割名	歴史学(54102)		
時間割担当	渡邊和行		
実施期	前期	単位数	2　選択
曜日・時限	金・4		

■授業の目標・概要
授業の目的は、ヨーロッパ近現代史を学ぶことを通して、日本の歴史との比較を意識しつつ西洋史の基礎知識を習得し、歴史的思考を会得することである。ヨーロッパ近現代史のなかから問題を抽出して、その問題を軸に講述する。今年は、国民とは何ぞや、外国人とは何ぞや、法制度的に国民と外国人はいつ誕生したのか、国民と外国人の関係史はいかなるものであったのかといったテーマについてフランスを中心に講述する。それは、受講生の皆さんが所持しているパスポートの意味を確認することにもなるだろう。なにゆえに、いつ、パスポートが必要になったのか？　パスポートを必要とする社会とはどのような社会なのか？　こうした問題を検討しつつ、ユダヤ人迫害などの過去における外国人排斥運動やヘイト・スピーチの現在を考察する材料を提供したい。

■学習の到達目標
フランス革命以降の西洋近現代史を対象とし、フランス革命、第一次世界大戦、世界恐慌、第二次世界大戦、ヒトラー、ドゴールといった歴史上の事件や人物について、高校レベルの知識を前提にしている。それゆえ、世界史をあまり学ばなかった受講生は、西洋史の入門書や教科書のたぐいを積極的にひもといて事前学習や事後学習に努めてもらいたい。「国民と外国人」という窓からフランスを中心にヨーロッパ近現代史の流れを押さえることが、学習の到達目標であり、その知をベースにして21世紀の日本と世界を展望することが各自の課題となるだろう。

■授業方法・形式
レジュメや資料の配付による講義形式の授業である。

■授業計画
第１回　イントロダクション
第２回　ヨーロッパとは何か
第３回　近代とは何か
第４回　国民革命としてのフランス革命
第５回　パスポートの誕生
第６回　フランス憲法と市民
第７回　ナポレオン法典と外国人
第８回　19世紀の国民と外国人
第９回　フランスとドイツの国民性論争
第10回　19世紀後半の移民
第11回　第一次世界大戦と外国人
第12回　戦間期の移民
第13回　第二次世界大戦期の外国人
第14回　第二次世界大戦後の移民問題
第15回　まとめ

■成績評価の基準
小テスト20%、期末筆記試験80%

■準備学習・復習及び授
毎回授業の前に、教科書を読んで予習をし、疑問点については下調べをしておくこと。さらに、事後学習として教科書やレジュメを再読すること。また、授業中に紹介する参考文献を読むこと。受講生の学習状況は、小テストなどによって把握しフィードバックしたい。

■履修上のアドバイス及
高校までの世界史のような通史とは違って、大学における歴史学とは「問題史」、すなわち問題によって構成された歴史のことです。つまり、歴史に問いを発してそれを解明する学問のことです。積極的かつ主体的に学んでほしいと思います。

■教材・教科書
教科書は使用しない。

■参考書
渡辺和行『エトランジェのフランス史―国民・移民・外国人』山川出版社、2013年。
ロジャース・ブルーベイカー『フランスとドイツの国籍とネーション』明石書店、2005年。
その他、授業中に指示する。